

三重工場 CSRレポート

事業内容: トラック・バス・RV車を中心としたタイヤ製造
敷地面積: 264,000m²
従業員数: 913人(2011年4月1現在)
所在地: 〒516-8530 三重県伊勢市御園町高向1038番地

相談・苦情などの受付窓口:
 業務課 庶務
 TEL: 0596-28-3154
 FAX: 0596-23-0962
 メールアドレス:
 r.sakuma@mta.yrc.co.jp



工場長ご挨拶



中村 亨

6月29日より、工場長となりました。神都伊勢、日本一の清流宮川の流れる伊勢に業を営む企業として、この豊かな自然を守っていかねばならない責任を強く感じています。横浜ゴムでは、環境の基本方針に「社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする」を掲げ、トップレベルの環境貢献企業になることを目標としています。

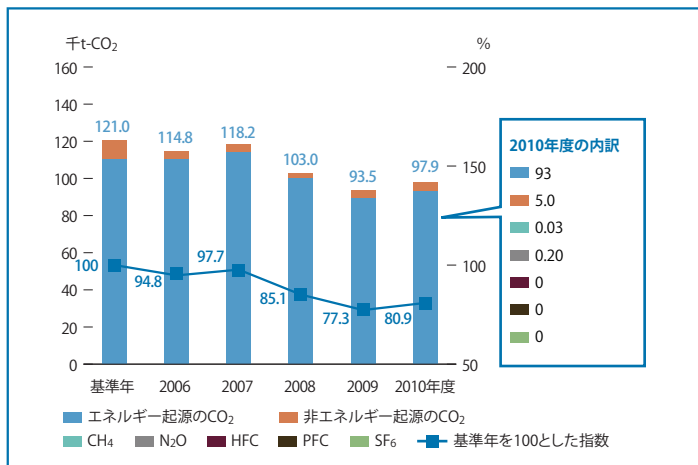
三重工場は、1998年にISO14001の認証を取得して以来、環境マネジメントシステムを機軸に従業員全員参加による環境保全活動に取り組んでいます。毎年、具体的な目標を定め、継続的に環境負荷の軽減活動を行うことによつて、それぞれの項目を改善しております。特に、女性職員を中心とした

「ムダ取り発見隊」による資源使用量の削減や、「千年の杜プロジェクト」によるCO₂削減、防災、生物多様性の保護に役立つ森の創生を目指した植樹などは、外に向かって自慢できる継続した活動となっています。今年6月には第4期の植樹を行い、これまでの植樹本数も合計20,000本となりました。また、他工場に先駆け、生物多様性保全活動の計画策定のため現地調査をスタートしました。その他、工場周辺と河川の清掃活動、駅前での緑の募金など地域社会貢献活動についても積極的に進めています。東北震災の際には、現場有志の手でいち早く支援物資を現地へ届けることができました。この支援活動は現在も継続し、全員一丸となった取り組みとなっています。今後も地域の皆さまに信頼し、自慢してもらえよう先頭に立って取り組んでまいります。

環境経営の推進

環境データ

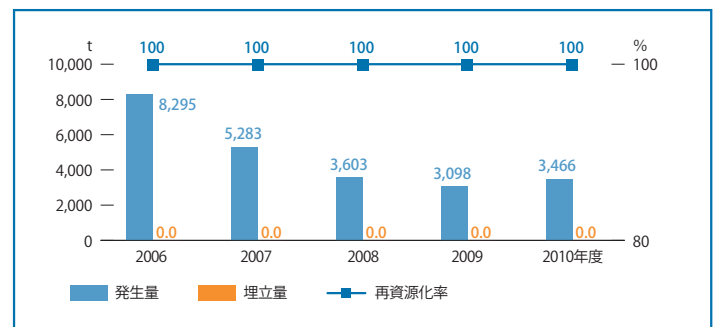
■温室効果ガス排出量の削減



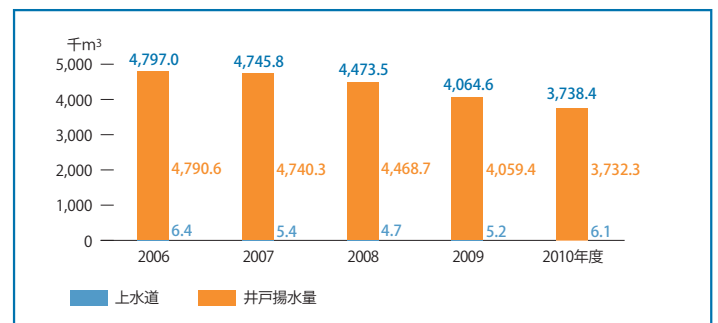
※基準年: 1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF₆は1995年としています。
 ※温室効果ガス(GHG)の算定方法: 環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
 なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。

■資源の有効活用/廃棄物の削減

・廃棄物データ



・水使用量



■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

排水口	項目	規制値	自主管理値	2010年度実績		
				平均値	最大値	最小値
三重工場 No.1排水	PH	6.0~8.0	6.5~7.7	7.1	7.3	6.8
	BOD濃度 (mg/l)	20	10	1.1	1.5	0.6
	COD濃度 (mg/l)	20	10	1.4	2.4	0.9
	SS濃度 (mg/l)	40	20	—	2.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	2	1.6	—	0.6	0.5未満
三重工場 No.2排水	PH	6.0~8.0	6.5~7.8	7.4	7.5	7.3
	BOD濃度 (mg/l)	20	10	1.0	1.8	0.8
	COD濃度 (mg/l)	20	10	1.4	1.7	1.2
	SS濃度 (mg/l)	40	20	—	1.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	2	1.6	—	0.9	0.5未満

※伊勢市公害防止協定
※排水先 検尻川

・大気汚染物質 (NOx、SOx)

項目	NOx	SOx
排出量 (t/年)	91	46

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2010年度実績		
				平均値	最大値	最小値
三重工場1号 コージェネ レーション	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	3.4	0.1	1未満	1未満	1未満
	窒素酸化物濃度 (ppm)	100	90	40	85	21
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.05	0.05	—	0.01未満	0.001未満
三重工場2号 コージェネ レーション	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	3.4	0.1	1未満	1未満	1未満
	窒素酸化物濃度 (ppm)	100	90	46	97	20
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.05	0.05	—	0.01未満	0.001未満
三重工場 3号ボイラー	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	1.0	0.1	3未満	3未満	3未満
	窒素酸化物濃度 (ppm)	130	120	79	98	60
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.1	0.05	—	0	0.005未満
三重工場 4号ボイラー	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	1.5	0.1	3未満	3未満	3未満
	窒素酸化物濃度 (ppm)	130	120	105	105	105
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.1	0.05	0	0.005	0
三重工場 1号乾燥炉	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	3.0	250	設備休止に伴い、測定なし		
	窒素酸化物濃度 (ppm)	250				
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.1				
三重工場 2号乾燥炉	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	3.0	250	設備休止に伴い、測定なし		
	窒素酸化物濃度 (ppm)	250				
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.1				
三重工場 焼却炉	硫酸酸化物排出量 (m³N/h)	6.2	5.0	2.5	6.15	1.2
	窒素酸化物濃度 (ppm)	250	125	0	0.57	0.33
	ばいじん濃度 (g/m³N)	0.3	0.15	0.001未満	0.001未満	0.001未満

※大気汚染防止法、伊勢市公害防止協定

化学物質の管理状況についての報告 (PRTR法への対応)

化学物質は、工場環境部内要領(原材料等化学物質管理要領、原料番号を有しない副資材(化学物質)の管理要領にて管理しています。PRTR法の管理状況は、年に1回の届出を毎年6月に行っています。

政令番号	対象化学物質	取扱量※1	排出量※2	移動量※3	安全性影響評価			
					有害性ランク(人)	換算排出量(人)	有害性ランク(生態系)	換算排出量(生態系)
20	2-アミノエタノール	0.703	0.703	0.000	B	70.3	C	0.0
53	エチルベンゼン	1.508	0.209	0.000	C	2.1	A	0.0
80	キシレン	7.437	0.706	0.000	C	7.1	A	0.0
132	コバルト及びその化合物	21.560	0.000	0.338	A	0.0	記載なし	0.3
**243	ダイオキシン類	3.821	0.023	3.798				
300	トルエン	9.854	1.296	0.000	C	13.0	D	0.0
333	ヒドラジン	1.448	0.000	0.000				
372	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	469.865			B	0.0	A	0.0
*400	ベンゼン	0.828			A	0.0	C	0.0
405	ホウ素化合物	0.614	0.000	0.018	D	0.0	記載なし	0.0
総合計		513.817	2.914	0.356		92.41		0.4

1: 取扱量は1t以上を記載(ダイオキシン類を除く)ただし、ベンゼン等の特定第1種指定化学物質は0.5t以上を記載
2: 排出量=大気+公共用水域+土壌
3: 移動量=廃棄物+公共下水道

騒音、振動、臭気について

騒音：工場敷地境界線(22カ所)にて管理を行い、月に1回自主測定を実施しています。

振動：工場敷地境界線(16カ所)にて管理を行い、月に1回自主測定を実施しています。

臭気：臭気脱臭装置を設置し管理を行い、年に2回工場敷地境界線にて自主測定を実施しています。

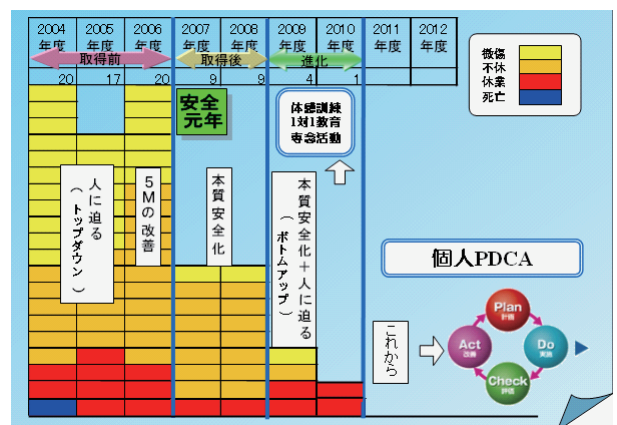
安全健康な職場環境

労働安全衛生

横浜グループでは2007年を「安全元年」と位置付け、スタートしてから4年が経過をしました。労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMSという)を運用しながら仕組みを構築した結果、災害発生は減少しています。

三重工場では、2010年度の災害は2件発生。いずれも作業者の不安全行動により発生しています。内容としては直接の製造ラインでの災害ではなく、間接、補助作業に発生していることから、間接業務の洗出しおよび標準化に向けた活動が急務となっています。このことを受け、安全な人づくりでは1対1安全教育や作業長による専念タイムで、作業者とのコミュニケーションを図る活動を、間接部門を含めた全従業員への展開をしています。また、昨年度より実施している個人工程の評価基準を定め、定期的な評価とレーダーチャート化による弱点の見える化を図り、全員参加による意識の向上とあわせ、職場安全活動の

柱であるヒヤリハット・危険予知活動・リスクアセスメントを活発に活用しています。





安全健康な職場環境

災害時の対応

災害時の対応は、防火・防災年間活動計画に沿って、月1回の防災会議を開催しています。自衛消防組織を編成し、消火器班・消防自動車班など、定期的な訓練と年2回の総合訓練を行っています。

今年度は東日本大震災の教訓から津波における避難場所の設定、避難経路の見直しを行い、万一の地震に備えた訓練も行っていきます。また、災害はいつ発生するかわからないことから、今年で5年目となりますが夜間における避難訓練も実施し、昼間では気がつかない問題点を洗い出し、いつでも対応できる体制を構築しています。



人権・労働慣行

人権教育

新規採用時には、従業員にコンプライアンスカードを配布し、人権尊重の重要性について教育を実施しています。

また、管理・監督職へ、ハラスメントセミナーを開催し、人権の尊重や男女平等の推進に関する教育を実施しています。

取引先とのかわり

人権侵害など、問題のある取引先とむやみに取引を開始しないよう、購買要領を整備。要領に基づいて新規購買先採用認可申請書に会社案内、経歴書等の資料を添付する仕組みがあり、取引業者との面談を行っています。

男女平等の推進、障がい者雇用

男女雇用機会均等法に沿って、男女平等に雇用の機会を設け、採用活動を実施しています。

また、障がい者雇用については、関連団体と情報交換を密にし、雇用の機会があれば、トライアル雇用等を実施し、その後の正規雇用に結びつける活動を実施しています。



取引先との信頼関係

取引先とのコミュニケーション

三重工場には協力業者集まりの「五十鈴会」があります。毎年、役員会や勉強会を行い、その中で要望や意見などを集め改善を図っています。



ステークホルダーコミュニケーション

これまで寄せられた主な意見や苦情と対応内容

臭気 Q:家中にいてゴム臭を感じます。特に風向きによっては窓を開けられない時もあります。

A:ゴム臭を加熱処理して回収するなどの対策をとっています。十分な対策が完成するまで対応していきます。厚生ホール食堂のダクト位置の変更もしました。

騒音 Q:トラックのアイドリングがうるさい。

A:アイドリングストップを各運転者へ促しました。また、騒音測定を定期的実施し騒音防止に努めています。

振動 Q:近隣の特定の場所で、振動を感じる。

A:振動原因の特定調査を継続しています。また、月1回の個別訪問をして振動レベルのヒアリング調査をしています。



地域社会とのかかわり

地域交流：

5月5日 ふれ愛まつり

地域ボランティア：

東北復興支援ボランティア(4月15日～24日 労組執行委員2人、
6月3日～9日 一般組合員2人が連合活動へ参加)

※毎月11日に「頑張れ東北デー」として募金活動を継続。女川町へ
物資を発送。

施設開放：

地域のサッカーグラウンド(YAMATO)にグラウンドを貸与

地域行事への協賛：

7月3日 高柳夜店に出店

7月16日 伊勢神宮奉納全国花火大会に協賛

7月 宮川・常盤・宮町 三町会盆踊り大会に参加および協賛

10月 御園ラブリバー祭に出店および協賛

環境活動参画：

6月4日 第4期植樹グリーンウェイブ

6月25日 伊勢湾森・川・海のクリーンアップ大作戦

7月3日 伊勢市主催勢田川七夕大掃除

外部環境活動：

5月30日 生物多様性調査キックオフ

6月3日 生物多様性調査説明会

工場見学・説明会のご案内

6月15日 南伊勢高校度会校舎工場見学

7月13日 三重県経営者協会 労務管理改善協力委員会工場見学

10月14日 ヤマハ発動機物流会工場見学

工場見学、説明会ご希望の場合は下記へご連絡ください。

担当部門：業務課 庶務

電話番号：0596-28-3154

FAX番号：0596-23-0962

メールアドレス：r.sakuma@mta.yrc.co.jp